ごとう通信

第63号
平成18年3月1日

ようやく二月が終わりました。まだまだ春とはいえませんが、やっぱり三月はいいですね。冷え込む日があったり、冷たい雨が降る日もあるでしょうが、夕方、訪問から診療室に帰ってきたとき、まだ夕日が残っていたりすると冬とは違うなあと感じます。まあ、ウインタースポーツにはまったく興味もない冷え性の僕にとって春は本当に待ち遠しいところなので、少しでも春の気配を感じるとうれしい限りなのですが。

さて、先日、オフコース（小田和正など）のCDをある方に借りました。それからまもなくしてアリス（谷村新二や堀内孝雄たち）の音楽を聴く機会がありました。まさに僕たちの中学、高校で流れていた音楽です。いったん聞いてみると当時の友人や光景、見ていたテレビ番組やスポーツ、さらには家族の出来事などいろいろ思い出しました。

そういえば音楽療法というものがあります。僕たちが知る範囲では、高齢者や認知症の方たちを対象にしたものなので、童謡や「懐メロ」が流れるものと思っていましたが、年代とともに中身が変わっていきますね。これからくるのはビートルズやグループサウンド世代、フォーク世代、僕たちのニューミュージック世代。もちろん忘れてはならないのが幅広く支持される演歌やジャズ。氷川きよしなどこれから何十年歌われていくのでしょうか。そんなことを考えていると、音楽って人間に結構欠かせないものだったということを再認識しますし、音楽療法の効果も痛感します。

若かりしアリス

ちなみに僕の父親の十八番は九州・福岡の「黒田節」。いったい何の世代だったんでしょう。

神経を抜く？

むし歯で歯が痛んだ時、「神経を抜きましょう」という言葉がよく聞かれます（人ごとのように言いますが僕も言います）。なんて恐ろしい響きでしょう。僕も小さい頃、かかりつけの歯医者さんにそういわれてそうとうビビッタ思いがあります。この神